

戦車通行路舗装の提案強化

コンクリート条件に応じ使い分け

NIPPOは、自衛隊が保有する戦車の通行路整備で、耐久性の高いコンクリート舗装とアスファルト舗装を使い分けて、施工条件や発注者の要望に応じた提案活動に一段と力を入れる。戦車通行路の整備は、専用道として長期耐久性を特に重視するケース、周辺が住宅地で振動・騒音や粉じん発生を考慮する必要がある一般道を対象にするケースなどがあり、それぞれの要求事項に技術面から対応。これまで培った実績も生かしながら、戦車通行路の需要を取り込んでいく。

戦車通行路に対応した「耐キヤタアスファルト舗装」として「アスコン」を1950年同社は、重機の無限軌道「代半ば」に開発し、展開し、走行や旋回に供用されている。

最大粒径20ミリの5号砕石を主骨格とした不連続アルトをバインダとしてな粒度分布で構成するアスファルト混合物で、変



RCCPの施工状況（静岡県裾野市）

おり、良質なアスファルトモルタルの充てん効果で水密性、不透水性も兼ね備えている。

耐キヤタアスコンの施

工実績は、87年から07年までの20年間で440件、80万平方以上に達する。戦車通行路のほか、資材置き場、物流施設、積雪

寒冷地の道路など、同技術の特性を生かせる個所にも使われている。戦車通行路では、防衛関連で13件、1・3万平方、また、陸上自衛隊の演習場がある宮城県大衡村で19件、4万平方の実績がある。

戦車の走行で路面が削られるのを防ぐために特殊バインダーを使った改良版の試験も実施しており、粉じんの発生を抑えて周辺の水田への影響回避に役立てる。

一方、コンクリート舗装では、単位水量の少ない超硬練りコンクリートをアスファルトフィニッシュャーで敷きならし、転圧する「転圧コンクリート舗装（RCCP）」を80年代半ばにヨーロッパから導入し、展開している。

従来のコンクリート舗装に比べて、施工性が良く、工期短縮、早期供用が可能な特色を生かし、89年から07年までの約20

年間で200件、50万平方の実績をあげている。コンテナヤードや駐車場などにも使われており、戦車通行路では、防衛関連施設を対象に24件、6・8万平方を施工した。

昨年度、静岡県裾野市内の治山治水事業の一環で実施した場内の戦車通行路の舗装では、戦車の往来に耐えられるよう、雨水流路部にRCCPを取り入れた。